



町をきれいに

クランビー情報局

家庭での生ごみの減量をお願いします

問 環境課ごみ減量係 ☎95-9899

夏は、果物や野菜などの水分の多い生ごみや草木のごみも増えて、年間でもごみの量が多い時期です。家庭での生ごみの減量に協力をお願いします。

●生ごみは水分をよくきってから出しましょう

生ごみの水きりをするとうみの減量化になり、収集作業の効率化に繋がります。焼却時の燃料抑制にもなり、処理費用の削減にもなります。また、水分の多い生ごみは、腐敗の原因にもなり悪臭の抑制にもなります。各家庭での少しの水きりが、大きな削減になります。

●草木のごみは乾燥してから出しましょう

草やせん定枝は、天日で乾燥させることで減量化できます。草の根についた土もよく落としてから出しましょう。

●生ごみ処理機・コンポスト容器の購入補助制度があります

市では、各家庭から出る生ごみの減量とリサイクル（堆肥化）するために、生ごみ処理機やコンポストの購入補助を行っています。市内の指定販売店にて、補助額を差し引いた金額で購入することができます。申請手続きは、店舗側で行われるので手間もありません。碧南市は、近隣市に比べて補助が多くお得ですので、是非利用してください。

	生ごみ処理機	コンポスト容器
対象者	市内在住者 (承認を受けた市内の販売店から購入した人)	
対象個数	1世帯1台まで	1世帯2台まで
補助率	3分の2 (1,000円未満切り捨て)	3分の2 (1円未満切り捨て)
限度額	50,000円	7,000円

碧南の歴史へのいざない

問 文化財課 ☎48-6602

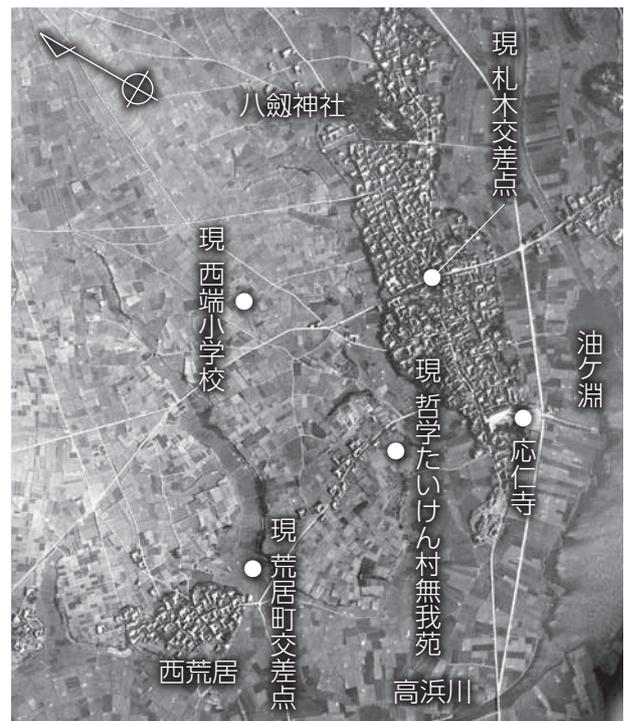
No.87 空中写真散歩(5) ～西端～

西端は、古くは入海に面した台地の突端に発達した集落です。八劔神社は宝徳3年（1451）に村の鎮守として現在地に祭られたと伝え、応仁寺は蓮如の三河巡化により、応仁年間に開創されたといわれます。

江戸時代に入り、元和2年（1616）西端村は本多忠相の領地となり、幕末の元治元年（1864）には西端藩となり、廃藩置県を迎えました。その間、入海は油ヶ淵となり、池周りに新田ができましたが、水害による田畑などの損失に悩まされました。

近代に入り、西端の農村青年団に招かれて来住した宗教運動家の伊藤証信は、昭和9年（1934）に西端無我苑道場を建設しています。

昭和30年（1955）の碧南市への編入合併以後、西端地区には住宅地が増え、北部には企業が進出して、土地利用が大きく変化したことが分かります。



△米軍1948年撮影／国土地理院提供